

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームこもれ陽	評価実施年月日	平成21年9月28日
評価実施構成員氏名	目黒 美知子 日向 峰子 大坪 良子 佐々木 成子 本間 啓子 本間 昭彦		
記録者氏名	本間 昭彦	記録年月日	平成21年10月27日

北海道

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	家族との関わりを大切にし、可能な限り面会に来て頂くよう家族にお話しをしている。また、家族と一緒に外出したり、旅行に出掛けたりする利用者もいる。地域とも施設の行事を通して、あるいは地域の行事を通して行われている。その他、町内の清掃、子ども会への参加など・・・		施設の理念に、地域密着型サービスの理念を追加し、4つの理念を基本理念とした。地域の行事、施設の行事、こもれ陽通信を通して地域に根ざした施設作りをと考えている。
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	施設の基本理念をもとに、安らかで、穏やかな生活をと考えている。処遇面でも寄り添う介護を基本として・・・		楽しく、穏やかで、安らぎのある暮らしの理念を大事にしたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	施設の取り組みなどをご家族、地域の方々へ、施設便りとして送付している（こもれ陽だよりにて・・・、3ヶ月に一回）。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	明るい挨拶をモットーに近所付き合いをしている。今年も10種以上の野菜等を作って頂いた。また、納涼祭などの大きな行事では、多くの方々が来られ一日を楽しく過ごされる。		特に、保育所との交流を深めるべく、今年は運動会を見物に行ったりした。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域で行われる大きな行事には欠かさず参加している。また、地域の保育園へも招待を頂き、運動会、お遊戯会等に出掛けている。その他、地区の新年会、フラワーロード祝賀会などにも参加している。		保育所等の子供たちと交流を深めたい。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域包括支援センターを中心とした会議、研修会が開かれ、意見を集約し、地域の人々に役立つ情報を提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
○評価の意義の理解と活用 7 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価することで、日々の実践を確認すると同時に、よりよいサービス提供に向けて日々努力している。また、外部評価で指摘された事項についても改善に向けて、職員一人ひとりがしっかり受け止め努力している。		
○運営推進会議を活かした取り組み 8 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	年間6回を目標に開催しているが、その都度、施設内で行われていることを報告し、それについて意見をいただいている。		今年も畑作物をつくり、利用者と一緒に成長を眺めてきた。今年の利用者の手伝いはなくなったが、成長を楽しむことができた。来年も続けたい。
○市町村との連携 9 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	医療連携体制加算について、あるいは、生活保護について、更には事故報告書についても伺いを立て、連絡をし合っている。更に、分からないこと等について意見を求め、質の向上に取り組んでいる。		
○権利擁護に関する制度の理解と活用 10 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	利用者(重度の認知症)が、甥の方に成年後見人になってもらっているが、後見人になっていただくまでに話し合いをしたり、家裁へ行ったりした。職員に対しても権利擁護に関する書類を渡し勉強会をしたり、研修会へ参加した。		権利擁護、成年後見制度に関するセミナーに出席し、知識を深めた。
○虐待の防止の徹底 11 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	当施設では虐待は「0」と思っているが、職員には地域で行われる研修に参加させ、報告してもらっている。そして虐待について話し合いをし、確認し合っている。		これからも虐待ゼロを目標に努力したい。
4. 理念を実践するための体制			
○契約に関する説明と納得 12 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、解約時のご家族の心情を察し、親切な説明とだったらと話さないよう心掛けている。		入所されている本人はもちろん、ご家族ともいろいろな場面で関わりを大切にし、信頼関係を構築する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者から意見を吸い上げるようにしている。特に介護員が接することが多いので仕事中にお話を聞き、管理者へ報告している。 寒い季節には、室温に気を付け、館内を27℃前後に保つよう心掛ける。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	利用者の状態については、月に一度家族に報告している。また、変化があればその都度連絡している。金銭の管理については、ご家族に出納帳のコピーを送っている。		月初めに利用者の日々の暮らしや出来事などを報告書として送っている。ご家族にも好評である。ご家族が遠方の方には特に喜ばれているため、継続したいと考えている。 また、入社、退社については便りの中に載せている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族からの意見等は今のところないが、家族が面会に来られたとき、何か意見等がありませんかと聞くこともある。意見・不満等があれば真摯に受け止めたいと思う。		今後ご家族の不満などがあれば、しっかりと受け止めたいと思う。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に全職員に対して個々に面談しその中で出る意見、提案を受け入れている。また、月一回行う全体ミーティングにおいても、フリートーキングの機会を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	どの時間帯であっても必要であるときは、出られる体制をとっている。		急な休みに対しても、即対応できるようにしている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	開設以来4年8ヶ月になるが、退職者は少ない。 職員のチームワークを大切にし、全職員が全体の輪の中にいるようにしている。		管理者は輪を大切にし、継続して働ける職場環境をつくることを目標としている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内でも会議の折、コピーしたものを職員に渡し、読み合わせをしているし、外への研修にも出かけている。 介護の技術向上についても、レベルに応じて1:1で研修している。		今後も内外の研修への参加を進めたいと考えている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地方のグループホーム職員と交換交流を行っている。1泊の研修とし、それぞれの施設について特色を学び、良いところを持ち帰り、仕事の中へ取り入れている。		今後も他施設との交流を深めたいと考えている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	音楽会へ一緒に行ったり、ゲームで汗を流したり、全体で観楓会を実施することで、ストレスの解消になっているのではないと思う。		職員にとって楽しい職場でなければ、利用者に反映されないと考えているので、その点気配りしている。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員がお互いの理解を深めるべく話し合いをし、チームワーク作りに勤めている。また、介護技術の向上に職員が講師となって研修を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談援助の基本をもとに利用者との対話を進めている。困っていることは何か不安なことは何か等聞く姿勢を持ち利用者が話しやすい雰囲気作りを大切にしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人に面会に来られたとき、あるいは家族会するときなどに施設に対して何か要望のようなものがあれば、あるいは、困っていることがあれば言ってくださいとお話している。		家族会を通じて意見交換をしたり、その内容を全家族に送付し、話されたことが、全家族で共有することになっている。 家族のつながりをよくしている所以かなと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現在までのところ、電話での申し込みが主で、時には施設見学の申し込みがあったりする。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者の心理状態を考え、時には入所前に体験入所を提供することもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	介護職員が今日は利用者からこんなことを教えてもらったといった話を聞くと、利用者とのスキンシップがうまくいっていることが実感として伝わっている。		施設の理念の一つ、寄り添う介護を基本として支えあう関係を築いていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族との関係を密にすることで、良い関係を構築できていると考えている。行事の手伝い、畑の作業、施設周辺の草刈等をご家族にも行っていただいているが、それを通してよい関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	誕生会、家族会、その他行事にご家族に来ていただき、一緒に食事をしたり、あるいは面会に来ていただくことで、良い関係ができていくのではと考えている。		継続が必要な問題である。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者のご家族以外の方々へも、当施設発行の「こもれ陽だより」を送付している。		今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日中帯はホールで過ごすように心がけ、その中に一人のいるという構図を作っている。また、もやしのひげ取り、カレンダー作りをして利用者同士の関係を作りだしている。		日一日と体力が低下していくが、終末期を大切にし、利用者同士の関わりを支えていかなければならないと考える。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	介護する家族が入院したため、入所となったが、比較的早くに退院となり家庭に戻ったが、行事の折は案内を出している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	可能な限り、その人らしい生活を送ってもらえるよう考え実行しているが、困難な場合はご家族と相談し、良い方向へ進むよ努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人の生活歴を知ることは、処遇上大変重要なことと考えており、多くを知ることとしている。ホームが家庭の延長線上にあるという考えに立っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	新聞に入る広告のチラシで、ゴミ入れの箱を作ったり、あるいは編み物、塗り絵リハ体操、ドライブ等を通して健康状態の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	週2～3回行うケースカンファレンスを通して、よいサービスの提供を常日頃考えている。また、ご家族とは電話でお話しをするか、面会に来られたときに伝えるようにし、その結果を踏まえて計画を立てている。		ご家族との話し合いは電話で行うこともあり、より良い介護の計画をと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	一応の目安として、3ヶ月を目処に見直しをしているが、本人に変化の無い場合はそれ以上のときもある。また、短いときもある。		利用者は日々変化することも多くあるので、その都度見直しをしている。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録は日々の介護記録に書かれているが、もし問題があればカンファレンスを通してよい方向に修正する。また、話されたことは、情報として職員全体に周知し共有する。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人の希望を聞くことは難しいが、どんな場合でも画一的な処遇ではなくその人個人に合った計画を立て支援することとしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	畑の作物作り、施設周辺の草刈をしていただいている。また、行事のときは、地域の方や学生ボランティアに協力を願っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のサービス事業者とはいろいろな面で連携をとっている。また、利用者が他のサービスを利用することは今のところ無い。		今後、その必要性が生じた場合には、進んで取り組みたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	具体的に協働するところまではいっていないが、権利擁護事業について教えを乞うことがある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力病院の訪問看護ステーションから週1回来てもらっている。同じ看護師が来られるのでなじみの関係が作られている。またドクターも月2回訪問される。診察の結果、変化があればご家族に連絡し、家族の意向を聞くようにしている。		ドクターの往診、訪問看護と相談しながら健康管理を行っているが、今後も継続していきたいと考えている。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医に受診していて、ドクターから日々の生活についてアドバイスを受けている。		認知症の専門医と連携をとりながら診断、治療を受けているが、今後も継続していく方針である。
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として看護師は置いていないが、協力病院があり医療連携をとっている。ターミナルケアについても連携をとり、ご家族とも話し合いをし了解をとっている。		継続していく方針である。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した場合、職員は出来るだけ面会するようにして、本人の状態を把握するようにし、病院のワーカーと連絡を取り合い情報交換をしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ターミナルケアについて職員全体で共有し、ご家族に対しても機会あるごとにお話し、本人の状態が終末期に近づきつつあるときは、ご家族に来ていただきお話ししている。		ターミナルケアについては、運営理念でも謳っている通りであり、共有すると同時にその方向で進めていきたい。また、ご家族ともお話しをし、ターミナルケアについて同意を得ている。(全員ではないが)
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ドクターは月2回、看護師は週1回訪問しているので、各個人に対する医療面での支援の方法を個別に聞くこととし、本人に対するベストな支援方法を職員全体で共有している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住み替えの事実無し。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	職員に対しては、機会あるごとに接遇の基本を話している。また、プライバシーを損ねるような言葉かけはしていない。		今後もプライバシー確保に十分気を配り、各個人の尊厳を守っていきたいと考えている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	日々の生活の中でなんとなく出る話し、言葉を尊重し、食事などにも反映している。また、言葉かけ、話し合いでも利用者が決定権を持つような言葉かけに気を配っている。		利用者の声は尊重したいと考えている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	最低限の決まりはあるけれども、全て柔軟に対応している。 例) 消灯は21:00であるけれども、利用者から今晩は見たいテレビがあるのと聞けば23:00まで見たり、食事についても今朝は眠いのでと言えば10:00頃の朝食となることもある。		その人らしい暮らしを大切にしたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	散髪は職員がすることが多いが、パーマの希望があれば美容院へ行ったりもする。また、化粧をする方、髪の毛に整髪剤をつける方もおられ、本人の思い通りにしていただいている。口紅など、職員がお手伝いすることもある。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備(病弱な方が多いため、利用者が厨房に入ることはできない)は食事前後のお手伝いをしていただいている。その他、もやしのみげ取り、豆の鞘取りといった、手先でできることをしていただいている。		施設での最大の楽しみは食事なので、手作り料理としている。今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	午前のおやつは少し甘いコーヒー(砂糖を入れない利用者もいる)、午後はその日により違うがお菓子であったり、果物であったりする。 タバコを吸う利用者はいないが、アルコールは行事のときにコップ1杯程飲む方もいる。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排便表を利用しトイレ誘導している。そのことで、少しでもオムツ減らしに繋がればと考えている。また、排泄介助については気持ちの良い排泄に気を配っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は月・金曜日の午後となっているが、失禁した時などはその都度行っている。また、行事などで曜日がずれることもある。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼食後の1時間ほど、ベッド、ソファなどで横になってもらっているが、あくまでも本人の意思を尊重して行っている。 ホールのソファでテレビを見ているうちに、居眠りをしてしまう人もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者全員が参加するわけではないが、毎月のカレンダー作りや食後の後片付け、掃除の手伝い等をしてもらっている。 また、天気の良い日には施設前の駐車場で昼食を摂ったり、午後のおやつをみんなで食べたりする。ドライブへ出ることも！		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	小遣い程度は自分で持っている方もいる。ショッピングへ行くときは、本人へお金をお預け好きなものを買えるように支援している。		利用者全員でショッピングに行ければいいなと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人ひとりの希望をかなえることは難しいが、天気の良い日には市内、郊外隣町へドライブに出かけている。町内の散歩にも良く出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族と一緒に温泉等へ行かれる方もいる。また「こもれ陽」でも温泉へ一泊旅行へ出かけている。		可能な限り外出の機会も作りたいと思う。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族へ電話する方は1～2名である。また、手紙を書くことはほとんど無く正月に年賀状を書くくらいである。		希望があれば電話や手紙の代筆もしたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	日時に関係なく訪問されている。朝の早い時間と夜間は遠慮願っている。緊急の場合を除いて。		鍵をかけない。自由な時間に来てもらい、自由な時間にかえる。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の事実はない。		今後も身体拘束のない施設運営を考えている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜6時以降は玄関の戸を施錠するが、日中常鍵をかけていない。居室には鍵が付いていない。		鍵の無い生活を続けたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中の職員配置は3:1である。職員がホールに一人いるように配置している。18:00～20:00は2名でそれぞれの時間帯で配置されている職員は目配り、気配り、転倒のないように見守る必要がある。		転倒は夜間一人になったときに起きやすい。職員には十分注意するように話している。また、プライバシーにも心がけている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ハサミ、編み針は自室で自由に使ってもらっているが、使い終わった後は事務所に戻してもらっている。厨房は調理が終わった時点で鍵をかけている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒は夜間帯に多く起きるため、巡回は特に転倒の危険がある利用者を重点的に回っている。事故防止には職員一丸となって取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急処置の講習については、職員全体が終了している。年2回の総合避難訓練を実施し、同時に消化訓練も行っている。		人命救助講習は職員全員が終了しているが、毎年年末避難訓練後人命救助訓練も行っている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	利用者が避難する方法を身につけることは困難なことであるが、1～2名は声かけで避難することができそうである。災害時には、地域の人に協力を得られるようになっている。		訓練のあとは、火災を未然に防ぐ方法などを講義してもらう。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	起こり得るリスクについてはご家族にお話ししているが、特に夜間帯は転倒のリスクも孕んでいるので、十分注意するようにと話しをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々利用者に対して行っているバイタルチェックから、本人の体調の変化を察知したり、その他、食欲、顔の表情で分かることもある。そんな時は訪看へ連絡し、指示を仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬管理は特に注意して行っている。また、利用者の状態変化で内服薬が変わる場合があるので、そんな時の伝達は、連絡ノートを使い確認している。		服薬に、前年度は不手際があったので服薬時は必ず注意している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便チェック表を使っているが、食べ物についても工夫している。便秘の時は乳製品(牛乳)を多く摂取するとか、下痢の時は抑えるようにしている。内服薬の調整も行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食歯磨きを行い、自分でできない方は職員がお手伝いをし、寝たきりの方はブラシのほか、ガーゼを塗らして行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	下利便が続く利用者に対して、看護師・ドクターと相談しながら薬の調整をしている。その他、職員が知恵を出し合って(脂分のない)特性スープを作ったりしている。水分は一人ひとりチェックしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	インフルエンザについては、予防接種しているが、玄関に手の消毒液を置いたり、厨房の入り口にも消毒液が置かれている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	厨房に入るときには履物を消毒したり、まな板などを使う前にアルコール消毒をしている。食器類は洗剤で洗った後、流水で洗っている。		新鮮な食材ということ、週2回の買い物を行っている。今後も継続したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関は入りやすいようにスロープにしている。階段もついている。入り口には季節の花などが生けられている。		玄関はスロープになっている。勾配が少し急なため将来的には緩くしようと考えている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	特別な飾りつけはしていないが、始めてこられた方が家庭的な雰囲気が出ていると言って帰られることが嬉しい。テレビ、ソファ、テーブル、日々の生活スナップ写真、季節の花等が活けられている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	場所的にはほんの狭い空間しかないが、ちょっと工夫をし場所を設けている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭で使っていた馴染みのものを配置している。持参のテレビ、仏壇、衣装ケース、ベッド等々。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	全居室、空気調整のファンが年中回っている。(音はほぼ無し) 居室の暖房は温度調節ができるようになっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	床はバリアフリーになっている。廊下、トイレ、浴室には手すりが付いており安心して館内を歩くことができる。 部屋には洗面化粧台が、トイレは3ヶ所設置されている。	浴室に手すりを付けたいところがあるが、建物の構造上不可能なところがある。 (去年の評価で手すりを付けたほうが良いといわれた部分)
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	各個人の部屋には、名前、手作りの人形がかかっていて、部屋を間違わないようにしている。また、各部屋には洗面化粧台がついており、歯磨き、洗面が出来る方は、自身で行ってもらっている。	
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	部屋にはベランダが付いていないが、施設の前には花がたくさんあり隣接地には11種類の野菜が植えてある。 苗植えから収穫まで楽しんだ。	来年も施設の前には花をいっぱいに飾りたい。 また、畑作も継続したいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない	① 今まで家庭で生活してきたのと同じような環境づくりに気を配っている。家庭で使っていた「馴染みの物(ダンス、仏壇ベッド、壁掛け等)」を部屋に配置する。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	① 日中帯、介護員3人が配置されているが、内一人はホールにいて、利用者とともに過ごすようにし、気配り、目配りをする。リハ活動(トランプ、塗り絵、カラオケ等々)もホールにて。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない	① 日々マイペースで過ごされている。食事その人のペースに合わせ、今日は眠いからと時間を延ばして提供することもある。すべて、個々のペースで。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない	① 職員がゲームに入ると雰囲気も変わり、利用者の表情も真剣そのもの。トランプ遊びでは「ばば抜き」が一番で、ばばを引くとワーッと笑いが起きる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない	② 一年を通して、できるだけ散歩やドライブに出かける機会を作るようにしている。(旭川市内、東川町、和寒町などへ)一年ぐらい前からは利用者から声がかかる時がある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない	① 健康面は、協力病院の訪看ステーションから看護師とドクターが定期的に来訪される。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない	① どんな場合でも利用者を優先し、柔軟な支援をしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない	① 面会時、電話等でご家族の話(困っていること、不安なこと等)をよく聴くようにしている。施設に対する「信頼感」は大きいのではないと思っている。

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ② 以前住んでいた地域の方などが訪ねてきたり、施設周辺の草刈や畑作物の苗上から収穫まで見に来てくれている方々本当に助けられることがいっぱいです。
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ② 行事の時などたくさんの住民に集まっていたいている。
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない ① 職員全員が「一つの輪」を作っているように感じる。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない ① 利用者及びご家族から聞く言葉を総合判断して、満足している様子が伺える。また、毎日の生活から表情を見ていてそのように感じる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない ① ご家族の面会、家族会、行事のときなど、いろいろな場面で応援していただくことが多いが、そんな時に聞く言葉から判断してそのように思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）